(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6714246号
(P6714246)
(45)発行日　令和2年6月24日(2020.6.24)　(24)登録日　令和2年6月9日(2020.6.9)

(51)Int.Cl.　　F I
B65D 85/808 (2006.01)　　B65D 85/808
B65D 77/00 (2006.01)　　B65D 77/00　F

請求項の数 9　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願2016-195273(P2016-195273)
(22)出願日　平成28年9月30日(2016.9.30)
(65)公開番号　特開2018-58601(P2018-58601A)
(43)公開日　平成30年4月12日(2018.4.12)
審査請求日　令和1年7月26日(2019.7.26)

(73)特許権者　597075199
株式会社　陶　和
東京都府中市白糸台３丁目３７番地の４
(73)特許権者　000178882
山中産業株式会社
京都府京都市右京区花園扇野町１７番地
(74)代理人　100119091
弁理士　豊山　おぎ
(72)発明者　渡辺　正道
東京都府中市白糸台３－３７－４　株式会社　陶和内
(72)発明者　元村　正
京都府京都市右京区花園扇野町２６－１１　山中産業株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ティーバッグ用包装シート及びティーバッグ

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１のシート材とこの第１のシート材よりも透明度の低い第２のシート材とを備え、
前記第１のシート材と前記第２のシート材とは、それぞれの少なくとも一部を重ね合わせて前記第２のシート材に切抜きが形成されているティーバッグ用包装シート。
【請求項２】
前記第１のシート材は、メッシュ素材により形成され、
前記第２のシート材は、不織布により形成されている請求項１に記載のティーバッグ用包装シート。
【請求項３】
前記第２のシート材は、前記第１のシート材の少なくとも一端部側に重ね合わされ、前記切抜きが前記一端部側に形成されている請求項１又は２に記載のティーバッグ用包装シート。
【請求項４】
前記第２のシート材は、前記第１のシート材の一端部側及び一端部側と反対側の他端部側とのそれぞれに若しくは前記一端部側と前記他端部側とに跨って重ね合わされ、前記切抜きが前記一端部側及び前記他端部側の双方に形成されている請求項１又は２に記載のティーバッグ用包装シート。
【請求項５】
飲料の抽出原料を収容して封止された袋体を有し、

前記袋体は、請求項１から４のいずれか一項に記載のティーバッグ用包装シートを備えているティーバッグ。
【請求項６】
前記袋体は、請求項１から３のいずれか一項に記載のティーバッグ用包装シートの前記第１のシート材を重ね合わせて前面部と後面部とを形成し全周を封止して形成され、
前記切抜きが、前記前面部又は前記後面部のいずれか一方に設けられている請求項５に記載のティーバッグ。
【請求項７】
前記袋体は、請求項１，２又は４のいずれか一項に記載のティーバッグ用包装シートの前記第１のシート材を重ね合わせて前面部と後面部とを形成し全周を封止して形成され、
前記切抜きが、前記前面部又は前記後面部の双方に設けられている請求項５に記載のティーバッグ。
【請求項８】
前記第２のシート材の端部の一部は、前記第１のシート材に留められていない開放端となっている請求項５から７のいずれか一項に記載のティーバッグ。
【請求項９】
前記袋体には吊り下げ糸が取り付けられ、
前記切抜きは、前記吊り下げ糸により袋体を吊り下げた際に前記抽出原料が見える位置に形成されている請求項５から８のいずれか一項に記載のティーバッグ。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ティーバッグ用包装シート及びティーバッグに関する。
【背景技術】
【０００２】
紅茶や緑茶などを抽出するためのティーバッグは、メッシュ生地等の単一基材により形成されている。又は、ティーバッグには、専らメッシュ生地の端部と不織布等の端部とをシート基材同士をつなげるための接合代とし、この接合代を接合して形成したシート基材を用いて形成されているものもある（例えば、下記特許文献１，２）。
これらの従来のティーバッグを構成するシート基材は、端部に形成された接合代を除いて単層に形成されているため、シート基材上に模様を施そうとする場合、メッシュ又は不織布に印刷する方法が考えられる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００６－２３０６４６号公報
【特許文献２】特開２０１１－２５５９２４号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかし、メッシュ生地を形成する糸は非常に細く形成されているためインクが載り難く、また茶葉の色によっては印刷しても模様が生え難いという問題がある。また、可食用のインクを用いるとしても、飲料を抽出するフィルタとなるものに印刷をすることは需要者に倦厭されることがあるという問題がある。
そこで本発明は、透明度が互いに異なる複数のシート基材及び飲料の抽出原料が持つ色彩を利用して模様を形成可能なティーバッグ用包装シート及びこれを用いたティーバッグを提供する。
【課題を解決するための手段】
【０００５】

本発明のティーバッグ用包装シートは、第１のシート材とこの第１のシート材よりも透明度の低い第２のシート材とを備え、前記第１のシート材と前記第２のシート材とは、それぞれの少なくとも一部を重ね合わせて前記第２のシート材に切抜きが形成されている。

本発明は、第２のシート材に切抜きを形成して、第２のシート材と第１のシート材ひいては抽出材料の色彩との間にコントラストを生み出し、ティーバッグの付加価値又は外観性を高める模様を創出している。

なお、本発明において「透明度」とは、第１のシート材又は第２のシート材を介して物が見える度合いを意味している。

【０００６】

本発明のティーバッグ用包装シートの前記第１のシート材は、メッシュ素材により形成され、前記第２のシート材は、不織布により形成されていてもよい。

この構成によれば、第１のシート材と第２のシート材とのコントラストを良好に以形成することができる。

【０００７】

本発明のティーバッグ用包装シートの前記第２のシート材は、前記第１のシート材の少なくとも一端部側に重ね合わされ、前記切抜きが前記一端部側に形成されていてもよい。

この構成によれば、第１のシート材の一端部側に模様を形成することができる。

【０００８】

本発明のティーバッグ用包装シートの前記第２のシート材は、前記第１のシート材の一端部側及び一端部側と反対側の他端部側とのそれぞれに若しくは前記一端部側と前記他端部側とに跨って重ね合わされ、前記切抜きが前記一端部側及び前記他端部側の双方に形成されていてもよい。

この構成によれば、第１のシート材の一端側と他端側の双方に模様を形成することができる。

【０００９】

本発明のティーバッグは、飲料の抽出原料を収容して封止された袋体を有し、前記袋体は、請求項１から４に記載のティーバッグ用包装シート備えている。

この構成によれば、前記いずれか一に記載のティーバッグ用包装シートを用いてティーバッグを形成することができる。

【００１０】

本発明のティーバッグの前記袋体は、前記ティーバッグ用包装シートの前記第１のシート材を重ね合わせて前面部と後面部とを形成し全周を封止して形成され、前記切抜きが、前記前面部又は前記後面部のいずれか一方に設けられていてもよい。

この構成によれば、ティーバッグの片面に模様を形成することができる。

【００１１】

本発明のティーバッグの前記袋体は、前記ティーバッグ用包装シートの前記第１のシート材を重ね合わせて前面部と後面部とを形成し全周を封止して形成され、前記切抜きが、前記前面部又は前記後面部の双方に設けられていてもよい。

この構成によれば、ティーバッグの両面に模様を形成することができる。

【００１２】

本発明のティーバッグの前記第２のシート材の端部の一部は、前記第１のシート材に留められていない開放端となっていてもよい。

この構成によれば、第２のシート材が積層されたデザイン領域において抽出された飲料を開放端から放出することができる。

【００１３】

本発明のティーバッグの前記袋体には吊り下げ糸が取り付けられ、前記切抜きは、前記吊り下げ糸により袋体を吊り下げた際に前記抽出原料が見える位置に形成されていてもよい。

この構成によれば、ティーバッグの使用時すなわち飲料の抽出中においても模様を表し易くすることができる。

【発明の効果】
【００１４】
本発明のティーバッグ用包装シート及びティーバッグは、ティーバッグ用包装シートを構成するシート基材の形状及び茶葉が持つ色彩を利用して模様を形成することができるという効果を奏する。
【図面の簡単な説明】
【００１５】
【図１】本発明の第１の実施形態であるティーバッグを展開したティーバッグ用包装シートの正面図及び正面図をＸ－Ｘ線で矢視した断面図である。
【図２】本発明の第１の実施形態であるティーバッグの正面図である。
【図３】本発明の第１の実施形態であるティーバッグを展開したティーバッグ用包装シートの変形例の正面図である。
【図４】本発明の第２の実施形態であるティーバッグを展開したティーバッグ用包装シートの正面図及び正面図をＸ－Ｘ線で矢視した断面図である。
【図５】本発明の第２の実施形態であるティーバッグを展開したティーバッグ用包装シートの変形例の正面図及び正面図をＸ－Ｘ線で矢視した縦断面図である。
【図６】本発明の第３の実施形態であるティーバッグを展開したティーバッグ用包装シートの正面図及び正面図をＸ－Ｘ線で矢視した断面図である。
【図７】本発明の第３の実施形態であるティーバッグの正面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１６】
以下、本発明のティーバッグ用包装シート及びティーバッグの各実施形態について図を参照して説明する。
【００１７】
＜第１の実施形態＞
本発明の第１の実施形態のティーバッグ用包装シート（以下、単に「包装シート」という）及びティーバッグについて図１から図３を用いて説明する。
図１（ａ），（ｂ）に示すように、第１の実施形態の包装シート１Ａは、矩形に形成された第１のシート材２と、第１のシート材２よりも透明度の低い第２のシート材３とを備えている。
【００１８】
第１のシート材２の長手方向の半部（一端側）には第２のシート材３が重ねられ、少なくとも第１のシート材２の一端側の端部２ｃと、第２のシート材３の一端側の端部３ｃとにおいて融着されている。第１のシート材２及び第２のシート材３とは端部２ｂ及び端部３ｂ並びに端部２ｄ及び端部３ｄにおいても融着されていてもよい。第２のシート材３の端部３ａは、第１のシート材２に融着していない開放端となっている。
【００１９】
第１のシート材２は、織・編み物、不織布、紙、フィルム等により形成可能であり、本実施形態ではメッシュ素材により形成されている。
第２のシート材３は、第１のシート材２よりも透明度が低く、織・編み物、不織布、紙、フィルム等により形成可能であり、本実施形態では不織布により形成されている。
本発明において「透明度」とは、第１のシート材２又は第２のシート材３を介して物が見える度合いを意味している。
【００２０】
また、第２のシート材３には、動物の頭部をかたどった切抜き４が形成されている。
切抜き４は、第１のシート材２の中心線Ｌ１の近傍に形成されている。切抜き４を形成している第２のシート材３の開口端縁３ｆは、第１のシート材２に固定されていない開放端となっている。
本実施形態において、第１のシート材２の長手方向の一端側の半部で第２のシート材３が取り付けられた側が、図２に示すティーバッグになった際の前面部Ｓ１を構成しており

、残りの半部が後面部Ｓ２を構成している。

【００２１】

次に、図２を用いて包装シート１Ａによりティーバッグ Ｘ１を作成する方法について説明する。

図１に示す包装シート１Ａによりティーバッグ Ｘ１を作成するには、予め包装シート１Ａの外表面に吊り下げ糸５を取り付けておく。

【００２２】

そして、図１に示す包装シート１Ａを中心線Ｌ１において折り曲げて中心線Ｌ１の両端側の側辺１ｂ，１ｄを重ね合わせ、融着して袋状にする。そして袋状にした包装シート１Ａの開口部から包装シート１Ａの内部に紅茶の茶葉などの飲料の抽出原料（不図示。以下同様）を収容させて開口部を閉じて袋体１０とすることによりティーバッグ Ｘ１が完成する。

【００２３】

このように、包装シート１Ａにより形成されたティーバッグ Ｘ１によれば、切抜き４において不織布よりも透明度が高いメッシュ素材が第２のシート材３の切抜き４から現われた構成となっている。この構成により、切抜き４から第１のシート材２を通して抽出原料の色が透けて表され、第２のシート材３と第１のシート材２及び抽出原料の色彩とのコントラストが生まれ、動物の頭部のシルエットが現れる。すなわち、本発明の包装シート１Ａ及びティーバッグ Ｘ１は、人の目を楽しませて惹きつける動物のシルエットの模様を創出してティーバッグ Ｘ１に付加価値を付与することができるという効果を奏する。

【００２４】

また、第２のシート材３は、第１のシート材２に比べて飲料の抽出速度が遅くなることがある。しかし、図１に示す第２のシート材３の端部３ａは開放端となっているため、ティーバッグ Ｘ１は、第２のシート材３に覆われた第１のシート材２から抽出された飲料を開放端から袋体１０の外部に効率よく放出することができるという効果を奏する。

また、切抜き４を形成している第２のシート材３の開口端縁３ｆ（図１参照）も開放端となっているため、ティーバッグ Ｘ１は、切抜き４及びその周囲からも飲料を効率よく放出することができるという効果を奏する。

【００２５】

また更に、切抜き４が中心線Ｌ１の近傍即ち袋体１０の底部６側に形成されているため、吊り下げ糸５の端部を持ってティーバッグ Ｘ１を吊り下げた際に、抽出原料が常に底部６側に溜まる。したがって、ティーバッグ Ｘ１の切抜き４によるシルエットは、ティーバッグ Ｘ１の使用時においても鮮明に表れやすいという効果を奏する。

【００２６】

次に、本実施形態の変形例を上記で説明した実施形態と異なる点のみを示して説明する。

本実施形態では、動物の頭部をかたどった切抜き４を例示したが、切抜き４の形状は、自然物、生物等の現存する具体的な物に限られず、円形、三角形、星形その他の多角形、文字その他の異形等の抽象的な形状又はその組み合わせなどどのような形であってもよい。

【００２７】

また、本実施形態では、中心線Ｌ１に沿う第２のシート材３の端部３ａが開放端とされた場合を例示したが、開放端は端部３ｂ，３ｄのいずれか一方又は双方に形成されていてもよい。或いは、第２のシート材３の端部３ａは第１のシート材２にシールされていてもよい。

また、切抜き４は、前面部Ｓ１に複数形成されていてもよい。

【００２８】

また、本実施形態では、第２のシート材３は、切抜き４を除いて第１のシート材２の半部の全体を覆うように設けられている、言い換えるとティーバッグ Ｘ１の前面部Ｓ１の全体を覆うように設けられている。しかし、本発明はこのような構成に限定されるものでは

なく、第２のシート材３は、切抜き４から抽出原料が現われ得る限り、前面部Ｓ１の一部に設けられていてもよい。又は、第２のシート材３は、図３に示すように、前面部Ｓ１から後面部Ｓ２の一部に亘って設けられていてもよい。

【００２９】

＜第２の実施形態＞

次に、本発明の第２の実施形態について、図４及び図５を用いて説明する。本実施形態においては、第１の実施形態と同一の構成については同一の符号を付してその説明を省略し、第１の実施形態と異なる点を中心に説明する。

図４（ａ），（ｂ）に示すように、第２の実施形態は、第１の実施形態と同様に前面部Ｓ１の全体に第２のシート材３が設けられているのに加えて、後面部Ｓ２の全体にも第２のシート材３が設けられている点で、第１の実施形態と異なっている。

【００３０】

後面部Ｓ２に形成された切抜き４は、前面部Ｓ１に形成された切抜き４と中心線Ｌ１に線対象に形成されている。

本実施形態において、第２のシート材３の長手方向の中央に延びる中心線Ｌ１において第２のシート材３は、折り曲げられて底部６を形成し得るが、切り離されて開放端とされていてもよい。

包装シート１Ｂによるティーバッグ Ｘ２の作成方法は、第１の実施形態と同様である。

【００３１】

この包装シート１Ｂ及びこれにより形成された図２に示すティーバッグＸ２も、第１の実施形態の包装シート１Ａ及びティーバッグＸ１とほぼ同様の効果を奏する。

また、第１の実施形態の包装シート１Ａ及びティーバッグＸ１についての変形例も本実施形態の包装シート１Ｂ及びティーバッグＸ２に適用することができる。

また、第２のシート材３は、図５に示すように、第１のシート材２の端部２ｃ，２ｃを残して中心線Ｌ１から一部に配されたものであってもよい。

また、切抜き４は、前面部Ｓ１及び後面部Ｓ２のそれぞれにおいて複数形成されていてもよい。

【００３２】

＜第３の実施形態＞

次に、本発明の第３の実施形態について、図６，図７を用いて説明する。本実施形態においては、第１又は第２の実施形態と同一の構成については同一の符号を付してその説明を省略し、第１又は２の実施形態と異なる点を中心に説明する。

【００３３】

前述したように、第１又は２の実施形態の包装シート１Ａ，１Ｂは、第１のシート材２の全体が袋体１０を形成し、第２のシート材３が第１のシート材２の少なくとも中心線Ｌ１から所定寸法の位置まで重ね合わされて、切抜き４が形成されていた。

【００３４】

これに対し、図６に示す第３の実施形態の包装シート１Ｃは、第１のシート材２の長手方向の両端２ｃ，２ｃ側（一端側とこれと反対側の他端側）のそれぞれに第２のシート材３が複数互いに離間して重ねられている。そして、第２のシート材３が第１のシート材２の端部２ｃ，２ｃを超えて設けられており、第１のシート材２及び第２のシート材３の双方によって図７に示す袋体１０を構成している。

【００３５】

第１のシート材２と第２のシート材３とが重ね合わされた部分において切抜き４が形成されている点は、第２の実施形態と同様である。

また、本実施形態の切抜き４は、これらによって第１のシート材２が現れる部分において抽出原料が見える位置に形成されている。

【００３６】

本実施形態の包装シート１Ｃを用いたティーバッグＸ３の作成方法は、第１又は第２の実施形態のティーバッグＸ１，Ｘ２とほぼ同様である。具体的には、包装シート１Ｃの外

表面に予め図７に示す吊り下げ糸５を取付けておき、第１のシート材２の中心線Ｌ１で包装シート１Ｃを折り畳んで中心線Ｌ１において形成された底部６の両端の側辺１ｂ，１ｄを融着して袋状にする。そして、包装シート１Ｃの開口部から包装シート１Ｃの内部に紅茶の茶葉などの飲料の抽出原料を収容させて開口部を閉じ、ティーバッグＸ３が完成する。

【００３７】

本実施形態の構成によれば、図７に示すようにティーバッグＸ３の底部６を含む下部が第１のシート材２のみにより形成されているため、ティーバッグＸ３を湯等の液体内に浸水させ易く、かつ、飲料の抽出が行い易いという効果を奏する。

その他、第１又は第２の実施形態のティーバッグＸ１，Ｘ２と同様の作用及び効果を奏する。

【００３８】

なお、前述した第１から第３の実施形態に関して、本発明の第１のシート材２及び第２のシート材３を構成する材料としては、メッシュ素材及び不織布の組み合わせに限定されるものではなく、透明度が異なり抽出に適したものであれば、どのような組み合わせであってもよい。具体的には例えば、２種類の不織布を用いたものであってもよい。

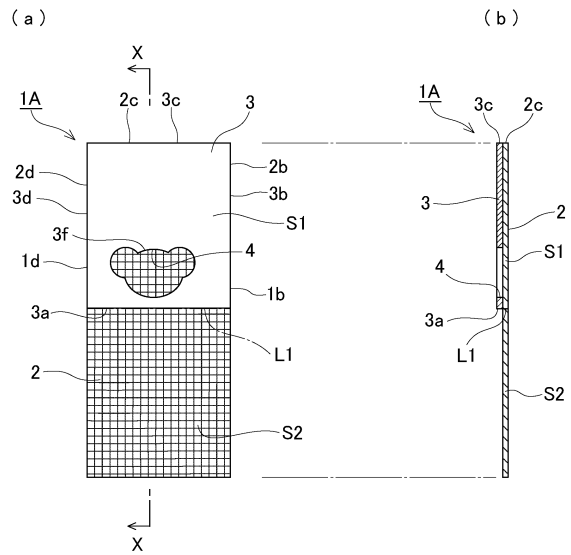
また、各実施形態では、第２のシート材３を外側に配したティーバッグＸ１－Ｘ３を例示したが、第２のシート材３は、第１のシート材２の内側に配されるようにティーバッグを形成してもよい。

【符号の説明】

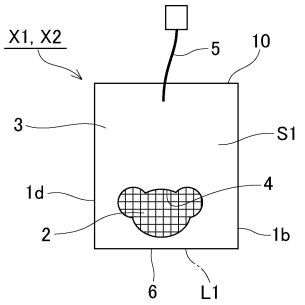
【００３９】

Ｘ１－Ｘ３…ティーバッグ
１Ａ－３Ｃ…ティーバッグ用包装シート
２…第１のシート材
２ｃ…一端部，他端部
３…第２のシート材
４…切抜き
５…吊り下げ糸
１０…袋体
Ｓ１…前面部
Ｓ２…後面部

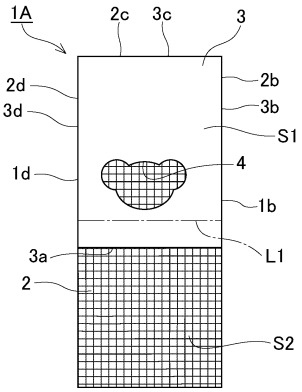
【図１】


（ａ）
（ｂ）
X
1A
2c
3c
3
2d
3d
3f
1d
2b
3b
S1
4
1b
3a
L1
2
S2

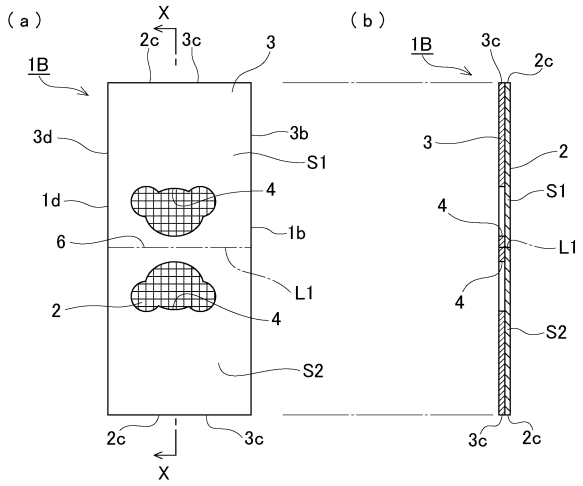
【図２】


X1, X2
5
10
3
S1
1d
4
2
1b
6
L1

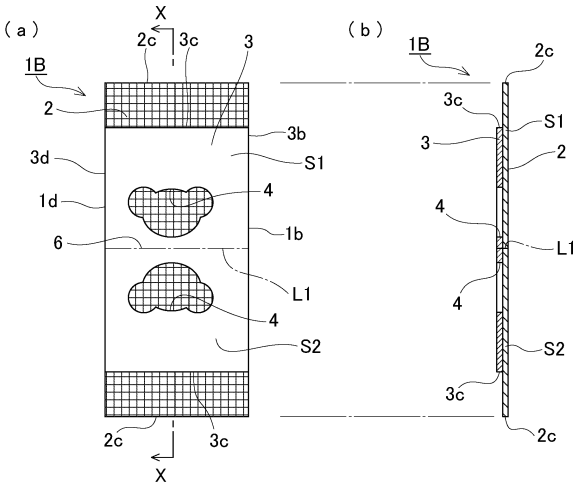
【図３】


1A
2c
3c
3
2d
3d
2b
3b
S1
1d
4
1b
L1
3a
2
S2

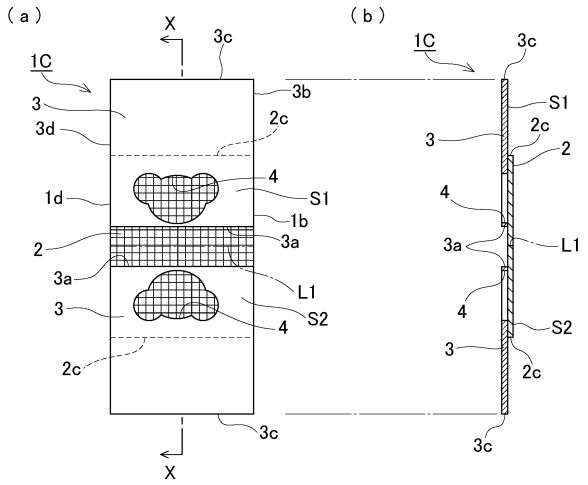
【図４】


（ａ）
（ｂ）
X
1B
2c
3c
3
3d
3b
S1
1d
4
6
1b
L1
2
S2

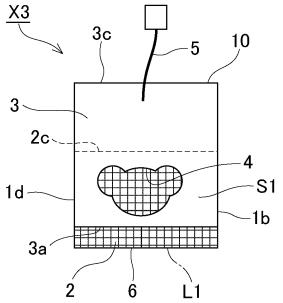
【図５】


（ａ）
（ｂ）
X
1B
2c
3c
3
2
3d
3b
S1
1d
4
6
1b
L1
S2

【図６】


（ａ）
（ｂ）
X
3c
1C
3
3d
3b
2c
4
S1
1d
1b
2
3a
L1
S2
2c
3c
X
1C
3c
S1
3
2c
2
4
3a
L1
4
S2
3
2c
3c

【図７】


X3
3c
5
10
3
2c
4
S1
1d
1b
3a
2
6
L1

フロントページの続き

審査官　佐藤　正宗

(56)参考文献　登録実用新案第３１４８４８０（ＪＰ，Ｕ）
特開２０１４－０７６２２１（ＪＰ，Ａ）
実公昭３５－０２５７７９（ＪＰ，Ｙ１）
欧州特許出願公開第００５８３２１０（ＥＰ，Ａ１）
特開２０１３－１４４５６５（ＪＰ，Ａ）
特開２０１２－１８７２７８（ＪＰ，Ａ）
特表２００３－５２８０１１（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ　８５／８０８
Ｂ６５Ｄ　７７／００
Ｂ６５Ｄ　６５／４０